

# 八雲紫の 社会構築主義幻想

市民のための社会構築主義理論の基礎





# 八雲紫の 社会構築主義幻想

## 市民のための社会構築主義理論の基礎

著：後藤和智（後藤和智事務所 OffLine）

表紙イラスト：don.juan（シャレコーベ草原）

発行：2015年10月18日（第2回博麗神社秋季例大祭）

### 注意

1. 本書は、同人サークル「上海アリス幻楽団」の作品「東方 Project」の二次創作作品です。本書は東方 Project の二次創作ガイドラインに従って製作されているものであり、また著者と原作者及び作者のサークルとは一切関係がありません。そのほか、登場人物の口調などが原作と異なる場合があります。
2. 本書を著作権法の定める私的使用の範囲外で公開などを行うことを禁じます。また、本書の使用により生じた問題についての責任は負いかねます。

## 少し長いまえがき

——博麗神社にて。

博麗靈夢（以下、靈夢）：できあ、最近紫と喋ってるご、紫が変なことはかり言っちゃって本当困ってるのよ。  
伊吹萃香（以下、萃香）：紫が変なことはかり言い出すのって、今に始まったことじゃないと思っけどねえ。

靈夢：いや、その内容というか質が最近変わってる気がするのよねえ。」仮に正義が自分にないとしたり、あなたはどう行動する？」とか、「目に見えているものが確かなものではないとしたり、あなたはどうか考える？」とか。別にあたしは幻想郷の秩序を守るために行動してるんであって、そんなこと考える暇もないんだけど。

萃香：あははは。なるほど紫らしいや。でも、あたしもそんな難しいことは考えないでいいと思っけどなあ。  
少名針妙丸（以下、針妙丸）：紫さんって、なんだか難しいこと言っけ煙に巻いたり混乱させたりするのが本  
当に好きだよねえ。ああやっけ何考えてるのかわからないのが幻想郷の賢者っぽい雰囲気を出すのに一役買ってるのかもしれないけど。

霧雨魔理沙（以下、魔理沙）：よお。お前たち、また紫の話をしてるのか。確かに最近の紫はいつにも増して変なことはかり言ってる印象があるよな。

針妙丸：あ、魔理沙さんだ。

靈夢：なんだ魔理沙か。まあ確かにそんな感じよねえ。いちいちそんなことはかり考えてたら異変解決なんてできないのってのに、あいつと来たら変な話でこっちを混乱させてくるんだから本当に迷惑たわ。

萃香：んなことはかり言ってるご本当に紫が出てくるかもしれないよ。あいつは神出鬼没だからなあ。

魔理沙：おお、そうだな。てなわけで、紫、出番だぜ。

八雲紫（以下、紫）：はい。みんなお久しぶりねえ。元気だったかしらあ？

針妙丸：うわあ、本当に出てきた！ ってそういう物言いだご、もしかして魔理沙さんも共犯だったりするん

ですか？

魔理沙：共犯つっ—物言いは失礼だな。ま、間違っちゃおらんけどな。

霊夢：てか、何が「お久しぶりねえ」よ、昨日も会ったじゃないの。

魔理沙：まあまあ。なんでもこれから紫が社会学のとある理論について講義するらしいぜ。

霊夢：社会学ですって？

紫：ええ、そうよ。最近霊夢たちには、仮に自分の立場や見方、正義が確かなものではないとしたらどうする

のか、ということに頻繁に問いかけているけれど、これから講義するのは、そういう立場に立って、人々の行動や社会を巡る問題を分析するときに役に立つ理論よ。

霊夢：理論ねえ。それはなんていう理論なのよ。

紫：今から解説するのは、社会構築主義という理論よ。

針妙丸：あ、構築主義って言葉、聞いたことあります。もともと聞いたことだけですけど…。確か、あらゆる問題はそれ自体問題として存在してるんじゃないかって、何らかの名前が付けられることによって初めて「問題」になる、っていう理論だったかなあ。

紫：針妙丸ちゃん、残念だけどそれは違うわ。詳しくは追々説明するけど、それはフーバーリング理論ね。また、構築主義、ないし構成主義という言葉自体、あらゆる学問で非常に多義的に使われているけど、社会学における構築主義はある程度の方向性を持っている言葉なのよ。

霊夢：もったいからずに、その構築主義とやらの意味を説明しなさいよ。あたしはあんたのそういう態度がうざったく感じるのみ。

紫：そうやって結論を急ぐのも悪い癖よ、もともとそれは構築主義とはあまり関係がないけど。まずは「社会構築主義」あるいは社会問題の構築主義と呼ばれるものをいって定義してあげようよ。

霊夢：そうよ。まずはそうしてあげるのが一番よ。

紫：相変わらずせっせつかね、霊夢は。閑話休題、「社会構築主義」とは、「社会問題をクレームの存在によって定義すること」よ。

霊夢：クレームの存在によって社会問題を定義するって、どういことよそれ。てかクレームって何よ。

「魔理沙：「クレーム」とは、特定の商品とかサービスとかに対する不平ではなく、基本的に「異議申し立て」一般として考えておくことにしよう。で、詳しくは第1章で追々説明することになるが、例えば社会的な価値観が固定されているとするならば、その価値観にそぐわないことが「社会問題」になるよな。社会構築主義においては、いったんそのような固定的な価値観に立って「社会問題」を捉えることをやめる。

霊夢：はあ。例えばあたしとしては、幻想郷にとって、妖怪が何か悪いことをしたり、あるいは人里の人間が妖怪になるようなことをしたりすることが問題であり、異変として解決しに行くへきたと考えるけど、そういう考えとはいったん距離を置こうってことなの？

魔理沙：ま、そんな感じかな。もうちょっと現実の社会に即して、なおかつ若干原始的に考えると、貧困という「状態」があるとしても、それを問題と捉え、その解決に向けて行動するような動きがないと、貧困は社会問題とはならない。逆に、それを解決しようとする動きがあつて初めて、貧困が「社会問題」になる、ってことだ。

針妙丸：要するに、社会問題というものの存在に、「もうちょっと」客観的「な視点を導入しようってことですか？  
紫：手短にまとめるとそんな感じかろう。社会構築主義理論においては、社会における価値観の揺らぎではなく、クレームの存在という判断基準を導入するのよ。それによつて、社会問題を考える新たな視点を供給することができるわ。

萃香：そんな理論を導入して、一体なんの役に立つんだよ。

紫：本書の著者が期待しているのが、青少年問題に社会構築主義の視座を導入することにより、青少年問題に關わる各プレイヤーの論理や行動の分析に役立つことだね。

萃香：青少年問題って、本書の著者の得意分野である若者論に近い分野じゃないか。それは単なる説明のしやすさを考えてのことじゃ過ぎないんじゃないの？

紫：もちろん説明のしやすさというのもあるけれど……あら、誰か来たみたいよ。

茨木華扇（以下、華扇）：霊夢、最近修行はうまくいってるの？ ……って、八雲紫？ あなた、霊夢たちを捕まえて何をするつもりなの？

霊夢：華扇？ 今あたしはここに居る胡散臭い妖怪の相手を立て込んでるのよ。悪いけど正直してきてくれな

い？

紫：あら、茨歌仙ごとく華扇じゃないの。別に変わったことはありませんわ。ただ、少し霊夢たちのものの見方を変えるために、社会学の理論の講義をしようとしているだけ。

華扇：普段から胡散臭いあなたが、社会学の理論の講義などというふうに胡散臭いことをするなんて、幻想郷の賢者の考えることはよくわからないわ。とりあえず、霊夢に悪い影響を与えないように、私も講義に加えてもらいます。で、あなたは何を講義しようとしているの？

紫：社会構築主義理論について霊夢に教えてあげようと思ってます。

華扇：社会構築主義理論ですって？ そもそも社会構築主義って、確かに欧米の社会学界隈では1980年代から90年代、日本だと1990年代から2000年代にかけて流行したと言えるけど、今となってはかなり下火になっている理論よ。それをどうして講義するのかしら？

紫：なるほどそうですね。確かに一部の解説書にも、社会構築主義に対して《そもそも、今は昔といったほうがいいのだろう。構築主義（または構成主義）というタームのブームがあった》(注0・1)と書かれる始末ね。そして、社会構築主義自身も、ブームの中でいろいろな批判に晒されてきたわ。ただ、社会構築主義のブームが残したものは決して小さくないものよ。特に青少年問題においては、社会構築主義は未だに有効なツールだと言っても過言ではないわ。

華扇：なぜそう言い切れるのですか？

紫：社会構築主義の解説を行っている人の中には、青少年問題を研究している人たちも少なくないわ。例えば先の引用文が掲載されている『方法としての構築主義』(中河伸俊、赤川学：編、勁草書房、2013年)の編者の一人である赤川学(注0・2)氏は、シエンターなどの研究が主だけど少子化社会に関する論考も多いわよね。

萃香：『方法』も減って何が悪いかー(ちくま新書、2004年)だったけか。

紫：他にも日本語で読める社会構築主義の解説書には、土井隆義(注0・3)氏や北澤毅(注0・4)氏などといった青少年問題関係の研究者も少なくないのよ。

魔理沙：もう一つは私から説明するぜ。マスコミやインターネットなどの議論だと、通俗的な青少年言説やそ

注0・1 中河伸俊「序章・構築主義でなにをするのかー経

験的探求の方途の成熟のために」(中河伸俊、赤川学：編『方法としての構築主義』(勁草書房、2013年) pp.1-13) p.1

注0・2 Akagawa, Manabu 1967-東京大学大学院准教授。セクシュアリティが専門。著書に『構築主義を再構築する』など。

注0・3 Doi, Takayoshi 1960-筑波大学教授。専門は犯罪社会

のカウンター言説においては、誰々とかどの勢力は子供・若者の「敵」とか「味方」とかいった解釈で行われる、乱暴に言ってしまうは「論壇プロレス」的な理解がなされてしまうことが多いよな。でも現実には、青少年言説は、所謂「二一ト」対策とか、紫もちよっと触れた少子化関係とか、あるいは表現規制問題とかいった政策的な動きとの関係も決して希薄ではない。しかし「論壇プロレス」的な視点だと、そのような政策的な動きに肉薄することは不可能に近い。できたとしても「政府や行政は無知だからあんな（自分にとって）間違ったことをする」とかいう議論、または陰謀論に飛んで行ってしまったらうな。

華扇：だからこそ構築主義の理論の理解が必要になる、ということですか。

魔理沙：そうだ。構築主義の立場に立つことによつて、言説と政策の関係を虚心坦懐に見つめることができるようになる。おっと、ちなみに私は今回は紫のアシスタントとして活動するぜ。

華扇：そういうえは以前に地底の主が人里の守護者に対して行った自己形成論の講義（注0・5）ではあなたは古明地さとのアシスタントをしていましたね。その顔の広さは危険なものにもなり得るけど……今は追求しないで置きましょうか。……で、そのような構築主義の理論を理解するために必要なものは他にもあるのではないかしら？

紫：そうね。一つ重要なものが抜けていたわ。それは、「構築主義に依つて立つ際、言説の内容や正否、正確性はとりあえず脇に置いておく」ということね。極端な話、データに基づくと真つ当な政策提言と、特定の「敵」を不必要に名指しする陰謀論は、ここでは同じ一つのクレームとして扱つていいわ。

霊夢：はあ！？ そんな前提、簡単に受け入れられるわけじゃないわ！

萃香：いや、あたしにはわかつたぞ。クレームの内容の正否とか正確性とかを脇に置くことによつて、クレームの持つ立ち位置とか、あるいは流れとかをわかりやすくするとか、そんなもんだろ。

紫：さすが萃香ね。だいたいそんな感じの理解でいいわ。

針妙丸：なるほど。構築主義っていうのは、クレームが存在すること「それ自体」を一つの社会問題の提起として捉えて、その流れとか、もしくはそれを取り巻く社会の状況などを分析するときにすつと役に立つツールなんですわ。

紫：まあ、初歩的な理解としてはそんな感じでいいかしら。霊夢、この2人のことを少しは見習いなさいよ。

学逸脱研究など。著書に『非行少年』の消滅』など。

注0・4 Kitazawa, Takeshi 1993. 立教大学教授。専門は少年犯罪逸脱研究など。著書に『いじめ自殺』の社会学』など、編著書に『リーディングス日本の教育と社会・9 非行・少年犯罪』など。

注0・5 後藤和智『古明地さとの自己形成論講義——市民のための「自己」をめぐる社会科学講座』後藤和智事務所 Off Line、2013年（第10回博麗神社例大祭）



霊夢……仕方ないわね。とりあえずここでは紫の言う前提を受け入れることにしましょうか。

魔理沙……さて、ここまで長い説明が続いて、そろそろ読者の皆様も退屈してきたんじゃないのか？ とりあえず挨拶くらいはしようぜ。

紫……そうね、忘れてたわ。……というわけで、前置きが非常に長くなってしまったけれど、このたびは「後藤和智事務所 Office Line」の51冊目、東方Projectの同人誌としては改訂版を除いて11冊目の同人誌を手にとってくれてありがとう。ここまで説明したとおり、本書は本書の著者の得意分野である青少年問題のある種の触媒として、社会構築主義理論の意義を現代によみがえらせるという解説書よ。同じ事を繰り返すことになるけれど、「論壇プロレス」的な言説の横行や、言説と政策の乖離が著しい青少年問題・言説をめぐる状況において、それを繋がつたものとして理解するためのツールとしての社会構築主義は非常に重要なものになっていると本書の著者は考えるわ。

魔理沙……また紫も言ったように、社会構築主義の解説の中には、青少年問題や青少年言説を題材として用いているものも多い。そのため本書は、社会構築主義の視点から見た青少年問題・言説という研究を紹介する役割も果たしていると言える。

萃香……東方とが「艦隊これくしょん」の同人誌からこのサークルを知った人がどうかはわからないけど、評論系の同人誌や本書の著者の商業活動からこのサークルを知った人は、幾ばくかは青少年問題について関心を持つてることだろうさね。そういう人たちの視座を広げるためにも本書は役に立つと考えた方がいいのかい？

華扇……なるほど、そのような目論見もあるのでしょうか。わかったわ。紫、魔理沙、あなたたちの社会構築主義の理論の解説が霊夢の考えに悪影響を及ぼさないのか、私も見届ける必要がありますね。

霊夢……あーもう、華扇も紫も、いちいちあたしのことばかり気にして、うざったいっただらありゃしないのよ！

# 目次

## 少し長いまえがき

4

## 第1章 社会構築主義とは何か

12

1. 1 はじめに 12

1. 2 機能的アプローチと価値葛藤学派 16

1. 3 ラベリング理論 19

1. 4 社会構築主義とは何か 23

## 第2章 社会構築主義と統計

28

## 第3章 社会構築主義と青少年問題

### 研究の概観

34

3. 1 はじめに 34

3. 2 社会問題のレトリック分析 35

3. 3 「有害図書」問題と社会構築主義 37

3. 4 「ニート」問題と社会構築主義 41

3. 5 児童虐待と社会構築主義 45

おわりに

50

あとがき

51

## 第1章 社会構築主義とは何か

### 1. 1 はじめに

紫：まずは、社会構築主義の理論について、それがどのような理論的背景を持って成立しているかというところから説明を始めるわね。

魔理沙：「社会問題の構築主義」という立場の解説書として基本的な立場を示しているのが、『社会問題の構築——ラベリング理論をこえて』（J・J・キッセ、M・B・スペクター…著、村上直之ほか…訳、マルシュ社、1990年、原書1977年）があるな。本章は基本的に同書の流れに従って解説していくことになるだろう。

針妙丸：サブタイトルに「ラベリング理論をこえて」ってありますが、社会構築主義ってというのはラベリング理論の発展みたいなものなんですか？

紫：あらゆる社会理論はだいたいそうなのだけど、ある社会理論は過去の理論と独立して存在しているわけではないわ。当然、社会構築主義も、ラベリング理論などといった過去の理論の限界や問題点を越えるべく作られたものと言ったことができるのよ。魔理沙が言ったとおり、本章は『社会問題の構築』をベースに議論を進めていくことにするけれど、同書はのっけからこのような文言で始まるのよ。

社会学において、社会問題の適切な定義は存在していない。また、社会問題の社会学という分野は現在存在していないし、此れまでも存在したことはなかった。——このような認識が、本書の出发点である。（注1・1）

霊夢：ずいぶんと挑戦的な物言いね。ただ、常識的に考えて、「社会問題」という枠組みが社会構築主義以前

注1・1 J・J・キッセ、M・B・

スペクター『社会問題の構

築——ラベリング理論をこえ

て』（村上直之ほか…訳、マル

に存在してないとは考えづらいわ。社会学にはあまり詳しくないけど、例えば『自殺論』（エミール・デュルケム 注）<sup>1)</sup>みたいな自殺に関する統計が提案されるようになったのは、それこそ構築主義が生み出れるずっと前のことじゃない。

紫：でもそれは、「社会問題」というものについて本心に客観的な定義に沿って行われたものなのかという疑問は残るわね。まあそれについては後々考えたいことにして、まずは『社会問題の構築』の著者であるキツセとスペクターがどのように考えてきたかということこそ、構築主義以前の理論に対する批判から見えていくことにしよう。著者たちは、犯罪について、犯罪者の更生や犯罪の予防、そして犯罪と被害者と警察の関係などの犯罪社会学について、「しかしながら、これらの研究のどれ一つをとっても、そのために犯罪を社会問題として定義する必要はないし、犯罪の分析において、社会問題の概念が用いられているわけでもない」(注1・3)と述べているわ。

針妙丸：それじゃ、犯罪を社会問題たらしめるものって一体なんなんですか？

紫：その例として、「組織犯罪は社会問題ではない」という視点を採り上げているわね。

霊夢：どうしてとやそれ。

紫：組織犯罪が社会問題として定義されないであろう理由として、著者たちはアメリカの組織犯罪の研究者であるDonald・R・クレシーの指摘を引き合いに出して次のように指摘しているわ。第一に、犯罪組織によって提供される非合法的な物資やサービスのコストが高すぎると感じる社会のメンバーが少ないという理由。第二に、その非合法的な物資やサービスを要求する人は犯罪組織に入って折らず、そのため本格的な犯罪者とは見なされていないという理由。第三に、「組織犯罪」そのものが違法なのではなく、麻薬の密輸とか不法な金融業、強請り、たかりなどが違法であり、従って「組織犯罪」そのもののデータを取るということができず、社会問題として認識してはいない。

霊夢：うーん。心情的には納得しづらいことは非ず常にくさくさあるけど、なんとなく社会問題の社会学ってもの一端がつかめてきたかな。第一の理由は、そもそも組織犯罪によって損をする人が少ないことが、犯罪を「社会問題」として見る視点を損なわせているってことかしら。第二に風貌とか行動とかで、「犯罪者」とか「犯罪行為」であることが隠されている故に社会問題であることと気が付かないことね。そして第三に、

1) ジュ社1990年、原書1977年  
p.5

注1・3 1858-1917 Emile  
Durkheim フランソワの社会学  
者。経験科学としての社会学  
を打ち出した人物として著  
名。著書に『自殺論』『道徳  
教育論』など。

注1・3 『社会問題の構築』p.7

データが取れない故に社会問題として実体化されないことがしら。

華扇：あり。霊夢も人の話をちゃんと理解できるようになったのね。

霊夢：莫逆にしないでよ。あたしだってこの程度の社会的な考えは理解はできるわよ。しかし社会学っていつのはいつの回ひくどいのが返屈よねえ…。

紫：心ふ。まあ話を少し進めましょうか。この組織犯罪に関する話は、『社会問題の構築』の著者たちが「われわれが客観的状况と呼ぶものと、それを社会問題と定義することの区別の詳しい例を示すため」(注1：4)と述べているように、社会問題はそれ自体で存在するものかと言いが難しいところだね。もちろんクレッシー自体、組織犯罪というものは客観的に明らかに存在していると考えているし、この指摘は組織犯罪が存在しないかのように扱われていることへの反発と言ったこともできるわ。あくまでも彼が存在しないと指摘しているのは「社会問題としての」組織犯罪ね。

霊夢：犯罪以外にも社会問題の構築として採り上げられている問題はあんの？

紫：他には同性愛を巡る図書館の分類があるわ。元々、アメリカの図書館の分類では、同性愛は性犯罪と同じ分類の中に含まれていたのよ。

萃香：マジで？

紫：ええ。同性愛は、元々は「社会集団：家族・結婚・女性√異常性関係(性犯罪を含む)√同性愛」で、他にも「女性の性倒錯」「サディズム、マゾヒズム、フェティシズムなど」が同じカテゴリに入っていたのよ。それがゲイ解放運動などの成果によって、「社会集団：家族・結婚・女性√性生活」のカテゴリになって、その中に「同性愛、レスビアニズム」「服装倒錯」「サディズム、マゾヒズム、フェティシズムなど」そして「売春」「性逸脱、性犯罪を含む」などが含まれるようになったの。

萃香：そういう風に図書館の分類を変えたってのがどういう効果をもたらしたんだ。

紫：この図書館の分類の訂正はゲイ解放運動の成果なのだけど、このように社会を改良する運動のひとつの成果として、図書館分類の改善が挙げられるけど、その一つの効果としては様々な分野に散らばっていた行政や研究の成果を集約したり、あるいは行政や研究、そして社会における特定の社会問題への見方を変え

注1：4 『社会問題の構築』 p.11

萃香…へえ。これも、まえがきで紫が言っていた、社会問題とはクレームが存在することによって定義づけられる。つー考えに繋がってるんだな。

魔理沙…同じ事は精神医学にも言えて、精神医学の世界ではよく使われているDSM(精神障害の診断と統計マニュアル)の力テコリにおける、同性愛の記述の変遷にもこのような効果があると考えているな。

霊夢…ちよっと待った。DSMで、その改訂が新たな精神病理を生み出すとか言われてる代物じゃない。まあ確かに精神医学の場面で多用されているのは認めるけど、それを過信するのは良くないんじゃないの？

魔理沙…霊夢の言っているのは、所謂「医療化」批判と言っているだろうか。ここで霊夢の採り上げたような「医療化」概念と社会構築主義の違いをちよっと説明しておくことにしようか。霊夢の言動に現れているとおり、医療化概念は概ね「過医療化」を批判する文脈で使われており、その定義が曖昧なまま放置されてきたと社会学者のコンラッド(注1・5)によって指摘されてきた(注1・6)。これは日本において「医療化」論が、コンラッドの言つそれよりも、アーヴィング・ソラの医療化論とイヴァン・イリイチ(注1・7)の「医原病」論を並立して紹介することが多いのが理由のようだ(注1・8)。従前の医療化論は医療の社会統制の制度としての正確に注目するのに対し、社会構築主義アプローチによる医療化論は、社会構築主義がクレームの提出によって社会問題を定義するように、「誰が」「どのよ様な手続きで」「どのよ様なクレームをつけるか」を重視する。霊夢の言うような「医療化」論を医療「帝国主義」批判アプローチとすると、それと社会構築主義に基づく医療化論は次の点で異なる。

霊夢…どんな点よ。

魔理沙…第一に可逆性だ。前者は医療化の流れを不可逆のものとして捉えるが、後者は医療化と脱医療化は常にセットで行われるものとされる。第二に医療専門職の立場で、前者では医療化の首謀者であり、主役であるのに対し後者は積極的に関与するのはわからない。実際、社会構築主義に基づく医療化論では、医療化の度合いを医療専門職の関与の度合いによって分けるんだ。第三に医療化の性格で、両方のアプローチにおいて社会統制の制度としての医療という視点があるが、後者では分析の力点が社会統制から後退する。第四に医療化の対象で、後者では社会統制への力点が少ない、ふん逸脱と非逸脱の区別が特に意識されない。そして第五に、価値判断の度合いで、前者は医療批判を重点に置いたため価値判断の性格が強いが、

注1・5 ビーター・コンラッド Peter Conrad 1945: 『医療社会学』。著書に『逸脱と医療化』など。

注1・6 筒井琢磨『医療化論の検討——医学「帝国主義」批判アプローチと社会構築主義アプローチ』、大阪大学女子短期大学部論叢』31号、pp.28-35、1993年

注1・7 Ivan Illich 1976-2002: 哲学者、文明批評家。著書に『シャドウ・ワーク』『脱学校社会』など。

注1・8 池田光穂「医

後者は過程の記述を重視するため価値判断はあまり含まれない(注1・9)。

針妙丸なるほど。ここでも社会構築主義の性格である、価値判断をあまり含まないことが出てくるはずね。

紫：魔理沙、ありがとう。社会構築主義は、価値判断を極力取り除き、さらに言えば言説の正誤の判断も可能な限り取り除いた末に、ある言説や社会的な運動の動きを見るための理論だ、というのを知っておいたほうがいいわ。さて、いよいよ『社会問題の構築』の本編に入っていくわね。

霊夢：ここまで導入だったってことね。まあ、社会構築主義なんて理論がどういう立ち位置の議論がある程度つかめただけでもよしとしましょうか。

## 1. 2 機能的アプローチと価値葛藤学派

紫：「社会問題の構築」の著者たちは、社会問題の2つの定義について提示しているわ。一つ目は「機能的アプローチ」で、これは「社会解体の概念を強調する」というもの。もう一つは「規範的アプローチ」で、これは「機能的であると同時により折衷的な公式をもつという特徴」(注1・10)というものね。機能的アプローチは、社会学者のマーティン(注1・11)による『現代の社会問題』という著作を引き合いに出して説明しているわ。

萃香：阪神の助っ人かな？

紫：マット・マーティン(Matthew Henry "Matt" Murton)氏は関係なさわ。閑話休題、マーティンによる社会問題への観点は、社会解体論、なじし社会病理論の典型とされているわ。マーティンに「社会解体は、相互に関連した地位と役割の社会システムが不適切であること、あるいは失敗していることを意味する。つまり、集合的目標とメンバーである個人の目的が、他のシステムであったならば実現したほどには実現されない場合を指す。特定の集団や組織、地域社会、あるいは社会がある程度解体しているというのは、地位と役割の構造がその具体的な状況で効果的に組織化されていないことを意味する」(注1・12)と。萃香：この観点からすると、社会解体って呼ばれるものはシステムの不具合って感じがするねえ。

紫：そっね。そして『社会問題の構築』の著者たちは、それ故に、マーティンの社会解体論は「理論的にも経験

療化」<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/090824medicalization.html> 2009年

注1・9 筒井、前掲p.33-34

注1・10 『社会問題の構築』p.37

注1・11 ロバート・キング・マーティン Robert King Merton 1910-2003 社会学者。1956年にアメリカ社会学会会長に就任。著書に『社会学論と社会構造』など。経済学者のロバート・コックス・マーティンは息子。

注1・12 『社会問題の構築』p.

40



的にもかなりの基礎作業が必要》(注1・13)なものであり、また《何がシステムの目標であり、それがそれを定義するのであろうか》(注1・14)と根源的なことを問っているわ。

萃香・あー、確かに。個人の目的が社会システムによって達成されないことが社会解体と言われても、一体その目標を誰が決めるのかつてのは議論の対象になるかもたねえ。

華扇・マートンは社会システム論の一つであるアノミー論でも有るたつたわね。アノミー論は元々はデュルケム(注1・15)のものだけど、マートンのアノミー論は文化的な目標と社会的な制度の間にギャップが存在するときにアノミーが生じるという理論ね。まあここで詳しく検討するのは置いておくとして。

紫::『社会問題の構築』の著者たちは、社会問題の機能主義的な議論に対しては、結局のところ膨大な量の考察があったとしても、それは『社会問題のトピックと内容の選択にその定義を適用するのを怠っている』という結論》(注1・16)に至りそのを得なく、社会解体の判断それ自体が実証的、技術的なものではなく、道徳的なものにしかなり得ないと結論つけているわ。

霊夢・異変の解決ならあたしが一気に片付けて終わりだけど、社会問題の判定となると一筋縄では行かないってことね。結構面倒なことやってるのねえ。

紫::機能主義的アプローチ、あるいは社会病理学的アプローチと呼ばれるものは、体系だった調査を行うためのものではなく、社会学の著作に対する低い評価に対する反発であったという指摘もあるけれど、その点は置いておくことにしようか。ここで簡単にまとめておくと、マートンなどに見られるような社会問題の機能主義とは、社会問題とは、広く共有されているような社会的基準と、現実の状態がかけ離れているような状態のことを呼び、そしてそのような観点に基づく社会問題のアプローチは、現実には道徳的なものにしかなり得ないというものね。

霊夢::そんな機能的なアプローチを乗り越えるのが構築主義的なアプローチってわけ？

紫::いいえ、あと何段階か乗り越える必要があるわ。『社会問題の構築』において、機能的定義と並行して検討されているのが規範的定義ね。規範的定義とは、社会問題を判定する人々を、社会を構成する大多数の人々とした定義のことね。この定義のいいところは、社会問題の内容が時代によって変わることを説明できること、また社会問題のあり方について調査をできることなどが挙げられるわね(注1・17)。規範

注1・13 『社会問題の構築』p.40

注1・14 『社会問題の構築』p.41

注1・15 例えば『自殺論』では

自殺の4類型の一つとして、社会的規制の少ない状態で起こる自殺として「アノミー的自殺」が提唱されていた。

注1・16 『社会問題の構築』p.43

注1・17 中河伸俊『社会問題の